



性の健康をケアすること

講師 鈴木幸子 埼玉県立大学保健医療福祉学部 教授

日時：2017年7月1日（土）18時～20時（18時 受付開始）
会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地2-12-10
築地MFビル26号館5階
（東京メトロ日比谷線築地駅2番出口 1階にソフトバンクが入っているビルです）

参加費：会員1,000円 非会員2,000円 学生500円
（当日受付でお支払いください）

参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで
メールでお申込ください。pwcsh@ellesnet.co.jp

当会の名前にもある「性と健康」はリプロダクティブ・セクシュアルヘルスあるいはウィメンズヘルスを包含する言葉だと思いますが、わが国では未だなじみが薄い用語です。健康的な性生活などという何やら胡散臭く聞こえてしまいます。性は人生の大事な要素であると言われてきましたが、「性」を健康の側面から取り上げる時、性自認、性機能や、生殖機能の維持増進および回復にばかり目が向けられていると感じます。

性の健康を考える時にアメリカ性情報・教育協議会（SIECUS）から出されている包括的性教育ガイドラインにある「性的に健康な大人の生活行動」が参考になります。性の健康を具現化している大人像からは豊かな自分らしい人生が想像でき、支援者が目指すあるべき姿と考えます。しかし実際には無意識のうちにあるリプロダクティブバイアスやジェンダー観が邪魔してとても難しいものだと思います。

今回は、「性的に健康な大人の生活行動」を紹介しながら、女性の健康や性の健康に関わりのある皆様と性の健康をケアする難しさを共有し、少しずつでも前向きになれる行動計画が描けることを目指して意見交換したいと思います。

【講師プロフィール】

東京世田谷生まれ。看護学部卒業後、東京の産院で助産師として働く。その後助産師教育の教員となり、現在は埼玉県立大学で母性看護学、助産学を担当している。主な仕事のテーマはリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーと健康、女性の健康のセルフケア、月経に関するセルフケア、思春期の健康教育、禁煙支援など。本会の運営委員。

・平成13年「コンドーム装着練習スライド」にて予防医学事業中央会 第13回手づくり健康教育媒体コンテスト奨励賞。

・平成23年思春期保健活動にて内閣府チャイルドユースサポート章。
趣味はたき火料理と温泉。